

地域生活支援学特論

[講義] 第1・2学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 鈴木英樹 hideki-suzuki@hoku-iryō-u.ac.jp 長谷川純子 只石朋仁

【概要】

地域生活を支援するうえでの基盤となる地域リハビリテーションの理念と地域リハビリテーション推進のためのリーダーとして活躍するために必要な知識及び実践的能力について学ぶ。

【学修目標】

一般目標： 地域リハビリテーション推進のための実践者として、どのような素養や実践能力さらには実践手法が求められているのか理解する。

地域診断や多職種連携など、地域支援活動を行うために必要な視点を理解する。

行動目標： 地域診断に基づきながら、関係職種と連携しながら地域支援活動を実施できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|------|-------------------|---|--------------------|
| 1～15 | 地域リハビリテーションの理解と実践 | 地域リハビリテーションに関する現状や課題について理解をした上で、地域における個別的な実践及び地域全体を対象とした実践（取り組み）について理解する。 | 鈴木英樹 長谷川純子 只石朋仁 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

本講義における討議への参加状況50%、レポート50%で評価する。

【教科書】

特に指定しない

【参考書】

大田仁史著；地域リハビリテーション原論Ver.5 医歯薬出版 2015年

澤村誠志監修；地域リハビリテーション白書3～地域包括ケア時代を見据えて 三輪書店 2013年

【学修の準備】

毎講義前に、参考文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し学習すること。（予習80分）

講義終了後に、講義での討議内容について整理復習すること。（復習80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、高度専門職業人としてリハビリテーション科学の実践に寄与できる優れた知識・技術と研究能力の基礎を修得するというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

鈴木英樹（専門理学療法士；生活環境支援） 長谷川純子（理学療法士、福祉住環境コーディネーター1級）

只石朋仁（理学療法士、専門理学療法士；生活環境支援）

【実務経験を活かした教育内容】

地域実践における実務経験を踏まえ、地域住民が抱える生活課題について積極的に意見交換を行う。